

# 丹治義之 学位論文審査要旨

主 査 池 口 正 英  
副主査 井 藤 久 雄  
同 領 家 和 男

## 主論文

Runt-related transcription factor 3 expression in human oral squamous cell carcinomas; implication for tumor progression and prognosis

(ヒト口腔扁平上皮癌におけるRUNX3の発現；腫瘍の進行および予後との関連)

(著者：丹治義之、尾崎充彦、長濱由美、小谷 勇、領家和男、井藤久雄)

平成18年 Oral Oncology 掲載予定

## 審査結果の要旨

本研究はヒトの口腔正常粘膜、異形成、扁平上皮癌(SCC)におけるRUNX3蛋白の発現を免疫組織化学的に検討し、Ki-67、P21、P27、アポトーシスと比較するとともに、臨床病理学的因子との関連について解析したものである。その結果、RUNX3蛋白の発現は、SCCよりも異形成で高く、SCCでは分化度が高いほど有意に高く、またKi-67と逆相関していることより、RUNX3は細胞分化ならびに増殖の制御に関連することが示唆された。また、分化度とRUNX3発現の相関およびRUNX3発現と予後との有意な関連が示されたことにより、RUNX3が分化度と予後の関連を結びつける重要な因子であると考えられた。本論文の内容は、口腔外科学および分子病理学分野で明らかに学術の水準を高めたものと認める。